



巻頭言

【GIGAスクール】スタート特集

学びと授業のあり方を変える！ 一人一台パソコン

上智大学教授
(文部科学省教育課程部会委員)
奈須 正裕



【道徳】教えて！ 加藤先生・土田先生

道徳授業Q&A

〇〇×道徳シリーズ 食育×道徳

武庫川女子大学准教授 藤本 勇二

連載スタート！【デジタルで道徳 第1回】

千葉大学教授
土田 雄一



道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生

筑波大学附属
小学校教諭
加藤 宣行



GIGAスクール・W座談会

1 体育授業におけるICT活用の可能性



日本体育大学教授
静岡市立横内小学校教諭
鎌ヶ谷市立東部小学校教諭

白旗 和也
吉田 康祐
佐々木 優

体育授業にICTを先行して取り入れてきた学校の先生方に、成果や課題をお話いただきました。

2 学校現場の実態と課題



創価大学教職大学院教授
須賀川市立白方小学校教諭
杉並区立沓掛小学校教諭
千代田区立麹町小学校教諭
さいたま市立上小小学校教諭

渡辺 秀貴
鹿又 悟
一杉 大介
市川 麻代美
根津 雅子

新刊書籍紹介！

- 算数×「学級経営」
算数授業のスペシャリストによる、
学級経営がうまくいくヒケツは？
- プレ漢字ワーク1～4年
読み書きが苦手な子どもに、
漢字を楽しむ1冊をご紹介します！

光文書院発行の 教育情報誌です。

今、必要な最新の教育情報を
詳しくやさしく
お伝えしていきます！



学ぶことが好きになる。

光文書院

小学校現場で
活躍されている
先生方の
力になります！

役立つ！
情報満載



T-Navi Edu

[年間3回発行予定]

T-Navi Edu(ティーナビ・エデュ) Vol.09

発行 2021年6月
編者 小学校若手教員サポート研究会
著作兼 長谷川 知彦
発行者

発行所 株式会社光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町14
TEL 03-3262-3271(代)
URL <https://www.kobun.co.jp/>
印刷・製本 三松堂株式会社

◇表紙・本文デザイン：Tokyo A
◇本文イラスト：熊アート、Junta

CONTENTS



【GIGAスクール】スタート特集

巻頭言 学びと授業のあり方を変える！ 一人一台パソコン

»P.3~6

奈須先生に、GIGAスクールがスタートするにあたり、一人一台のパソコンの環境下における
▶ 個性的な学びの実現
▶ 学校ならではの協働的な学びの実現
に取り組むことの大切さをご示唆いただきました。

奈須 正裕先生▶



【道徳】教えて！ 加藤先生 土田先生

»P.7~12

「〇〇×道徳シリーズ」の第3弾として、武庫川女子大学の藤本先生に「食育×道徳」でご寄稿いただきました。また、加藤先生・土田先生には、定番の道徳授業の誌上チェック&アドバイスもいただいています。

座談会 1

【体育】体育授業における ICT活用の可能性

»P.13~18

副読本「体育の学習」編集委員である白旗先生と、先行して体育授業にICTを実験的に導入してきた小学校の先生にご対談いただきました。

【特別寄稿】養護教諭からのアドバイス~夏休みの過ごし方~

座談会 2

【デジタル】学校現場の実態と課題

»P.19~26

GIGAスクールをスタートするにあたり、何を準備してどのように取り組んでいけばよいのか、試行錯誤する現場の先生方の声を伺いました。

【夏のデジタル】夏休みに活用できるデジタル教材のご紹介

【新刊紹介】

»P.27~31

6月に発行されたばかりの新刊をご紹介します。算数のスペシャリストによる学級経営のヒケツ&読み書きが苦手な子どもに漢字を楽しむ1冊！

▶▶▶ 読者参加型情報誌を目指していきます

ご要望をお寄せください！



この二人の対談記事を読みたいですね！

弊社がコーディネートして、対談企画を実現していきます。



特別支援教育を特集してほしいな。

弊社がご要望のあったトピックを取材して、誌面でお伝えします。



私の道徳実践を達人先生に助言してほしい！

道徳指導や実践経験の豊富な先生に、本誌上で助言をいただけます。



学級経営でこんなことに困っています！

教育経営アドバイザーに、本誌の中で質問にお答えいただけます。

取り上げてほしい情報やご意見を、弊社 web サイトを通してお寄せください。

光文書院 ティーナビ 検索

クリック



巻頭言

【GIGAスクール】スタート特集

学びと授業のあり方を変える！ 一人一台パソコン

一人一台のパソコンの利活用は、機械でなくアカウントを基盤に構想し、一人ひとりの個性的で連続した学びの上に、学校ならではの協働的な学びを実現できるよう取り組むことが大切です。

上智大学教授
(文部科学省教育課程部会委員)

奈須 正裕



「一人一台」よりも重要な「一人1アカウント」

GIGAスクール構想により一人一台端末が配布されましたが、より重要なのは、併せて付与された、ユーザ・アカウントです。これにより、クラウド上にストレージを持ち、さまざまなクラウド上のシステムやプログラムにアクセスできます。このことは、自分のアカウントでログオンすれば、どの端末からでも自分のデータや情報環境を使える準備が整ったことを意味します。

例えば、自宅のパソコンに自分のアカウントを入力してログオンし、クラウド上のストレージにファイルを保存しておけば、翌日、学校の端末でファイルをダウンロードして、先生に提出したり友達に紹介したりできます。また、個人のファイルを全てクラウド上に保存しておけば、端末が故障しても、予備の端末にログオンすることで、直前まで編集していたデータを読み出し、そのまま学習を継続することができます。

アカウントが主で、ハードウェア(端末)が従であるという事実は、「モノ」から「コト」へと変化する、



今の社会をよく表しています。かつて、私たちは車という「モノ」を買うことで、遠くまで自由に移動する機能、「コト」を手に入れていました。しかし、今や個人では車を買わず、共有することで機能、「コト」を手に入れるカーシェアが広がりを見せています。「Society5.0」も「持続可能な社会」も、「モノ」から「コト」への社会の構成原理の変化として、よりよく理解できるでしょう。

「モノ」がなくても必要な「コト」が行える。アカウントの正しい運用を通して、このことを低学年のうちから経験や理解をさせることは、GIGAスクール構想のねらいの一つです。一人一台端末の整備は、これからの社会の基盤となる情報環境の特質を子どもが理解する好機であると、まずは教師が理解することが大切なのです。

「モノ」▶▶▶「コト」への変化



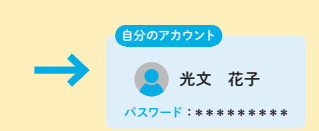
自動車



自由な移動



ハードウェア(端末)



自分のアカウント

光文 花子

パスワード:*****
アカウント(自由なアクセス)

ログオン操作は儀式ではない

その意味でも、アカウントの概念と取り扱いスキルの習得は重要であり、それ自体が教育内容です。学校現場から「電源を入れれば自動的にログオンするようにできないか」といった声をよく聞きますし、すでにそのように設定している地域もあるようですが、不適切です。

たしかに、ログオン操作は幼い子どもには負担であり、使い勝手も悪くなります。しかし、電源を入れるだけで誰でも使えるという環境は、セキュリティやプライバシーはもとより、アカウントの概念を理解し適切に運用することを学ぶ上でも、大い問題があります。

個々人のデスクのない、フリーアドレスのオフィスが当たり前の今日、端末を個人の専有とする発想は、いかにも時代遅れでしょう。むしろ、端末を個人に割り振らず、キャビネットから任意の個体を取り出しても、アカウントを入力すれば、自分が昨日まで使った環境がそこにあるという使い方の方が望ましいくらいです。

端末に電源を入れるたびに求められるIDとパスワードの入力作業は、単なる儀式ではありません。アカウントの概念や仕組みの理解を通して「情報活用能力」を育成する機会ととらえ、指導することが望まれます。(図1)

図1 1人1アカウントで実現する新たな情報環境



対面授業と家庭学習の一体的充実

コロナ禍によりリモートワークが広がりを見せていますが、学校や家庭といった場所に関係なく連続した学びを展開できるよさを、ICTの教育利用でも存分に生かしたいものです。例えば、東京都三鷹市立東台小学校では、4つの視点を挙げて実践研究に取り組んでいます。(図2)

視点3の反転学習は、家庭での予習により、学校での協動的な学びの効率化とさらなる充実を狙うものです。

視点4の補習・定着では、AIドリルや動画視聴など、パソコンならではの個別最適化の家庭での推進により、基礎学力の着実な定着を目指します。

もっとも、これらは以前からも広く実践されてきたものであり、さらに興味深いのは視点1と2でしょう。

まとめや振り返りを家庭で行う視点1には、OECDも注目する省察(リフレクション)の深まりと習慣化への寄与が期待されます。全員が共通に押さえるべきまとめもありますが、さらに今日の学びの自分にとっての意味を熟考し、自分なりの言葉で表

現することで、学びはあっというまになります。振り返りの中で、今日の授業で疑問に思ったことやさらに深めたいことを考え、実際に調べてくる子どもも出てくるでしょう。視点2は、このような動きを想定し、期待したものであり、子ども主体で展開する授業の基盤となっていくものです。

振り返りはすぐにアップロードされ、担任はその日のうちに今日の授業に対する子どもたちの省察や意味付けを知ることができます。授業中に「わかりましたか」と問われ「はい」と答えた子どもの中にも、本当は「はい」ではなかった子どももいます。そのことを自覚し先生に知らせることは、学びへの誠実さにおいて子どもにも教師にも望ましいことです。もちろん、教師は子どもたちの理解状態を踏まえ、明日の授業をよりよいものにできます。

蓄積された振り返りは、学期末の評価の際にも確かな拠りどころになりますし、子どもにも振り返る機会を設け、今学期の学びを自分なりに自己評価させるとよいでしょう。

図2 三鷹市立東台小学校が提案するオンライン活用の4つの視点



情報伝達機能の大幅な縮小

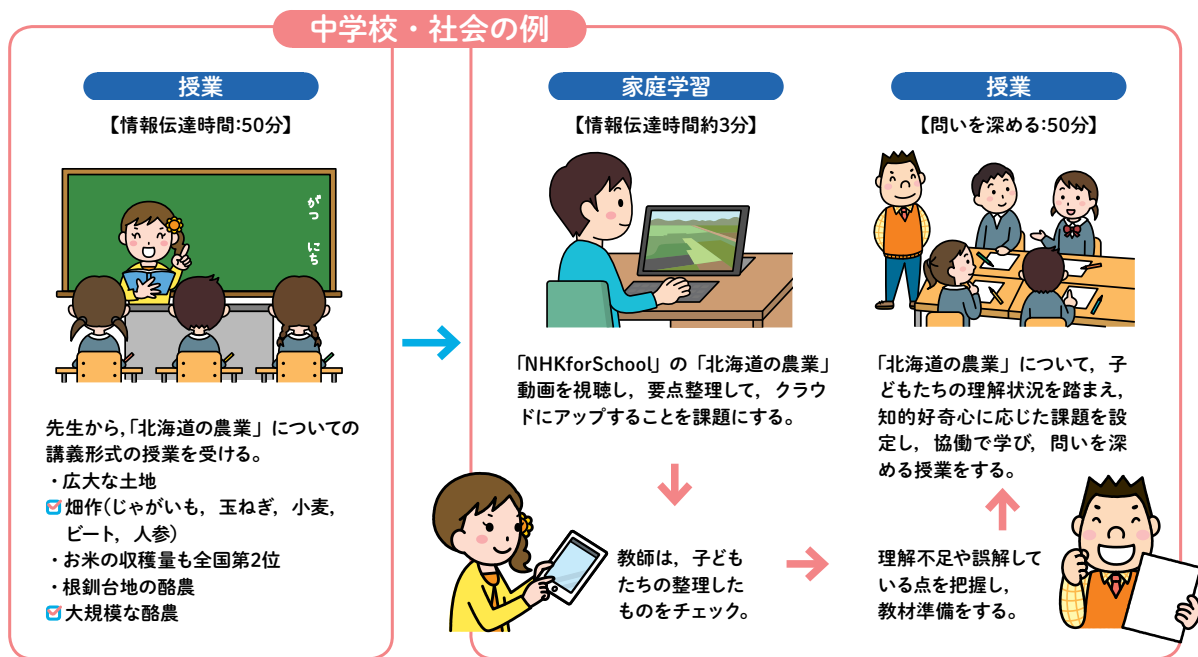
以上のような取り組みの結果、子どもの間に授業への積極的で自分ごととしての構えが形成されるにつれ、対面授業における情報伝達の機能は大幅に縮小していくでしょう。中学校の授業になりますが、社会科で50分をかけ「北海道の農業」の特質を教える授業を見ました。しかし、その内容であれば、NHK for Schoolにある約3分の動画で十分ですし、かえってわかりやすいかもしれません。GIGAスクール構想がもたらした一人一台の端末は、そういった授業からの脱却を求めています。

例えば、動画を視聴して要点を整理することを共通の課題とし、さらに発展として疑問や問いを挙げることを家庭学習とした反転学習にします。結果は

その日のうちに教師に届けられますから、多くの子どもが押さえ切れていないことや誤解している点があれば、次時の授業で確認するとともに、協働で深めるのにふさわしい疑問や問いを選び、教材を準備すればよいでしょう。

子どもたちの理解状態と知的好奇心に即応する授業になりますから、意欲的に学び、さらに理解も深まります。また、取り上げられた子どもにすれば、自分の問いで今日の授業が展開するのですから、格別に嬉しいでしょうし、頑張るに違いありません。授業の出発点として、その子どもになぜその問いを抱いたのか、自分としての予想などについてまとまった発言を求めるのも得策です。(図3)

図3 情報伝達の時間をコンパクトにし、問いを深める時間を充実する例(反転学習)



まとめ

上掲の反転学習を実施するには、各教科等の内容や本質＝「見方・考え方」に関する深い理解が教師に求められます。また、万事が教科書通りには進まなくなりますが、そもそも教科書は「主たる教材」であり、学校と教師に課されているのは学習指導要領の実現ですから、何ら問題はありません。そろそろ日本でも欧米のように、教科書をリソース・ブックと考え、カ

リキュラムとは教師と子どもが協働で生み出していくものとする時期が到来しているのかもしれません。いずれにせよ、新学習指導要領が求める、「見方・考え方」を働かせた「主体的・対話的で深い学び」の実現において、一人一台のパソコンは強力な助っ人となり「黒船」となるでしょう。



道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生



千葉大学教育学部教授

土田 雄一

『小学道徳 ゆたかな心』(光文書院)監修

筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

『小学道徳 ゆたかな心』(光文書院)監修

食育は SDGsにつながる

食育は「SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」につながります。

食育は、自分も食べ物も大事にする教育です。何よりも「持続可能なこと」が食育にとって最も大切です。自分の体を考え、バランスのよい食事をする習慣を身に付け、それを継続することは、食料を大切にし、飢餓をなくすこと（目標2）や環境を守ることにつながるのではないのでしょうか。

先日、資源が「もったいない」と考え、消費期限切れ直前のコンビニ弁当を購入したときのことです。自分の健康を考え、お弁当のご飯を半分以上残しました。このことを妻に話すと「あなたの健康にはよいかもしれませんが、資源を無駄にしている」と言われました。「食べられるご飯を捨てたから」です。妻はご飯を別の容器に移し、保存して食べていました。さすがです。自分の健康と環境にも優しい行動を考えさせられました。どちらも「持続可能な取り組み」がいちばん大切であり、課題です。

納得解を 引き出せる授業を！

一学期が終わろうとしています。

昨年度のこの時期は、休校だったり、オンライン授業だったり、「非日常」が続きました。それに比べると、今年度は対面の授業が戻り、それだけでも幸せな気持ちになります。

私は、今年度は1年生の担任としてスタートし、子どもたちと一緒に何事も新鮮な気持ちで過ごすことができています。道徳の授業も同じですね。分かりきった、見え見えの「答え」を言い当てていき、再確認するような授業ではなく、その内容項目がもつ本当のよさを改めて見つめ直す。そこから生じた価値観は、人から押し付けられた「一般解」ではなく、自分たちで再構築した「納得解」となります。

深く考え、議論するという道徳科の授業の醍醐味は、そんなところにあるように思います。

まだまだ予測不能な状況が続くかもしれませんが、だからこそ、自ら考え、前向きに生きようとするたくましさや道徳教育を通して培っていききたいものですね。

～道徳の授業に新しい風を～

「食育×道徳」教育

夏休み前に
実践を!



武蔵川女子大学准教授
藤本 勇二

夏休み前に道徳の時間で食育の授業実践をしませんか。

道徳の授業では、自分の食生活や生活習慣を見つめ、自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験や考え方と照らし合わせながら、食生活や健康についてさらに考えを深めるよさがあります。

夏休み前に“食育×道徳”実践を!

夏休みは、子どもたちの生活が不規則になりがちです。生活習慣も乱れる傾向にあります。朝食の欠食や食事のバランス、生活リズムの不調や睡眠の質の低下など、夏休みの生活の乱れは、見過ごせない問題です。成長期の子どもたちにとって健全な食生活は、健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすものです。食に対する意識を高め、食に関する正しい知識を習得し、適切な判断を行う能力を身に付けるといった食育の推進が大変重要になっています。

道徳では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目指します。そこで、健康や食生活の側面から、自己を見つめることで道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることにつなげます。食に関する指導を行うことで、食育の充実につなげるのみならず、当該教科の目標がよりよく達成されることが実現できるのです。

学校教育活動全体を通じた食育実践

平成29年に告示された小学校、中学校、特別支援学校小・中学部の『学習指導要領解説 総則編』において、「学校における食育の推進」がこれまで以上に明確に位置付けられました。あわせて、体育科(保健体育科)、家庭科(技術・家庭科)及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努め

ることとされ、子どもたちの発達の段階を考慮して、学校教育活動全体として取り組むことが必要であることを強調しています。

『食に関する指導の手引 第二次改訂版』では、指導を充実するために下の6つの視点を設定しています。

食に関する指導を充実するための6つの視点

食事の重要性	食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。
心身の健康	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
食品を選択する能力	正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
感謝の心	食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。
社会性	食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
食文化	各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

※道徳科の内容項目として、食育に関係が深いのは、(節度・節制)(感謝)(生命の尊さ)などの道徳的価値を含む内容です。

道徳における食育の進め方

*夏休み前の指導を踏まえて、節度・節制に関して左記の手引きをもとに、道徳科の基本的な学習指導過程との関係を整理します。

小学校

〈導入の段階〉

- 起床や就寝時刻、食事を含めた生活のリズムについて1週間調査を行い、規則正しい生活をしているかどうかを自己評価させて、問題意識をもたせます。

〈展開の段階〉

- 規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっている、心の弱さから不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。

〈終末の段階〉

- 食事と睡眠をしっかりとり、生活に一定のリズムを与えることで、健康で明るく、快適な毎日を送ることができるようになることに気付かせ、実践しようとする意識を高めます。



中学校

〈導入の段階〉

- 自分の生活を客観的に振り返り、特に朝食のとり方や、食事内容について振り返ることで、食の大切さを考えるきっかけとなるようにします。

〈展開の段階〉

- ある生徒の生活習慣を描いた教材などを通して話し合い、規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっている、心の弱さから不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。

〈終末の段階〉

- ある生徒の生活習慣を描いた教材などを通して話し合った後、自分の生活を振り返る中で朝食を食べる意義を考え、自己の生活における食生活を見直す実践意欲を高めるようにします。

食育実践のポイント

その1 カリキュラムマネジメント

食に関する内容は教科横断的な視点に立った学習が求められます。そのため、子どもたちの実態を踏まえ、道徳科と各教科等、学級活動の関連を明らかにすることが大切です。その上で、各教科等の具体的内容を関連付けながら効果的な年間指導計画などについて校内研修等を通じて研究していくことが重要です。



写真は、2年生が道徳の学習を踏まえて、学級活動での「元気のもと朝ごはん ～1日のスタートは朝ごはんから～」を学習している場面です。ペアで朝ごはんのメニューを考え、タブレットを使い、タブレットから献立を選択し、画面に並べていきます。自分の食べている朝ごはんの経験を話しながら、バランスのよい食事への関心を高めています。

その2 なりたい自分を考える

食育となると、〇〇を食べないといけない、△△は食べてはいけない、という指導のイメージがあります。子どもたちにとって、なりたい自分や夢を実現するために食を考える、そうした立ち位置が大切になります。『小学校学習指導要領解説(平成29年告示) 特別の教科 道徳編』においても「道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるという道徳的価値の自覚を深める過程で、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるのである。その中で、自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにすることが大切である。」とされていることを自覚したいものです。

その3 栄養教諭や養護教諭とのコラボ

専門性を有する栄養教諭や養護教諭が授業に参画することにより、目標や内容、教材や題材、学習活動など様々な面で食に関する指導と関連付けて指導することができます。道徳科の授業で活用する教材を作成するとき、食や健康に関する情報などを提供してもらったり、内容などのアドバイスをもらったりすることも大切です。専門性を生かして子どもの課題を解決するために協働する授業づくりが必要です。



相談者・相談内容：行動するよさの伝え方



大分県中津市立
豊田小学校
和田 苗美子 先生

正しいと思っていることが言えるようになるには、どんなことが大切か考えるとき、「友だちと一緒に言う」や「先生に言う」などの考えが出て、そこに落ち着きそうになります。自ら正しいと信じるころから行動することのよさをどのように理解させるかが難しいと感じています。

3年

【主題名】
どうすることが正しいか
【教材名】
思い切って言ったらどうなるの？
(光文書院)

主題を通して考えたいこと

<●善悪の判断, 自律, 自由と責任>

- 自分が正しいと思ったことを実行できず葛藤する主人公の姿から、自分自身の心を見つめ直し、葛藤を乗り越えて正しいことを実現しようとする意欲につなげる。



本時の展開

学習活動	手立て
○「友だちが悪いことをしていたらどうするか」を話し合い、学習のめあてを設定する。	●めあて「正しいと思っていることが言えるようになるには、どんなことが大切か考えよう」を提示する。
○教材を読んで、私の心の中でたたかいているのはなぜか話し合う。	●「あやちゃんに言わなくて」の理由を取り上げ、問い返しの発問をする。
○心の中のたたかいに勝って、正しいと思ったことを言えるようになるためには、どんなことが大切かを考える。	●ペアワークで考えさせる。
○教師の話を聞く。	●友だちの感情に巻き込まれそうになったが、正しい行いを貫いた女の子の話をする。
○気付いたことや心に残ったこと、これからやってみたいことをまとめる。	●授業の中で生まれた「勇気」「思いやり」「後悔」などの言葉をつかって、振り返りをさせる。

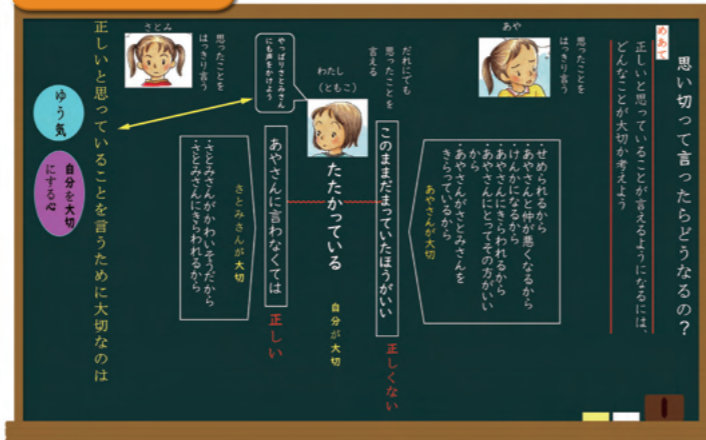
授業で工夫した点

問い返すことで考えを深めさせる

「友だちと一緒に言う」や「先生に言う」などの方法論になることが予想されたので「本当はどうすることがいいの？」と問い、思い切って言う方がよいことを押さえました。その上で「ただそれができる…どうしたらいいと思う？」と問い、めあての「正しいと思っていることが言えるようになるためには、どんなことが大切か」と問うと、友だちと言うなどの方法論が出始めました。「一人でやります。方法ではありません。どんな心をもつかと言うことです」と話す子どもたちは考え込みました。こんな時こそ友だちと相談しようとしてペアで相談させると、子どもたちは真剣に話し合いました。

数分後、まだわからないと言う子もいましたが、わかったと言う子どもたちから、勇気や強い心や、さとみさんとあやさん、どちらが大切か考えるという意見が出ました。そこで、また「3人いる。自分のことは大切にしないでいいの？」と問い返し、自分自身に目を向けさせました。

本時の板書



【説話】5年生の子どもの実話。ある日「仲間はずしをしないようにしましょう」と友だちに思い切って言ったら、自分が仲間はずれにされてしまった。その子どもは一人で勉強をしたり本を読んだりしていた。2週間もすると「何しているの？」と話しかけてくる子どもがいて、新しい友だちもできていた。一人で過ごしている間、その子どもはさみしかったと思うけど、心はすっきりして元気だった。もし、正しいと思ったことが言えなかったら元気だったと思う？○○さんが言うように、ずっともやもやしていたかもしれないね。

授業の内容 (T:教師 C:児童)

- T:仲良しの友だちが悪いことをしているのを見たとき、みんなはどうしますか？
C:注意する。
T:みんな注意できる？
C:うん。(うなずく)
C:う～ん。(首をかしげる)
T:今日、みんなに考えてほしいのはこれです。

問題意識を高める

「めあて」を設定する

めあて:正しいと思っていることが言えるようになるには、どんなことが大切か考えよう

(教材範読後)

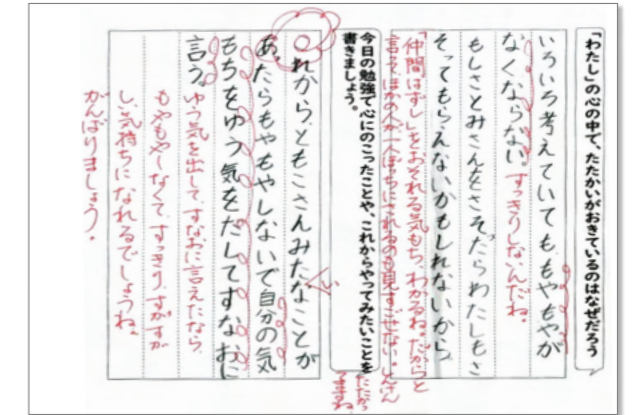
- T:あやさんに何を言いたいのか？
C:「やっぱり、さとみさんにも声をかけよう」です。
T:声をかけようというわたしと、黙っていた方がいいというわたしがたたかっている。なんだろう。
C:あやさんと仲が悪くなってしまいそうだから。
C:言わない方が、あやさんにとっていいと思うから。
C:さとみさんが、かわいそうだけど、あやさんは嫌がるから。
C:どっちにしても、どっちかには嫌われるから。
C:誘いたいけど、けんかになるから。
T:本当はどうすることがいいの？
C:思い切って言った方がいい。
T:だけどできない。正しいと思った方を選びたいけど、できない。どんなことが大切なのかな。
C:友だちとはっきり言う。
T:一人でやります。方法ではありません。どんな気持ちをもっていたらいいのかな？

困った様子なので、グループで話し合わせる。

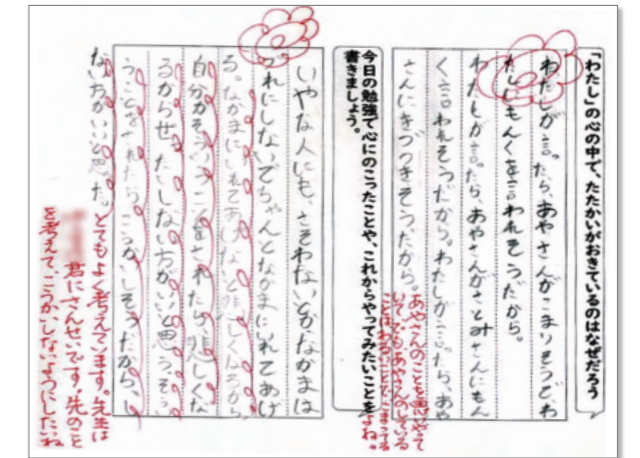
- C:強い心をもったら、あやさんに言えるんじゃないかな。
C:勇気をもったら言えるんじゃないかなと思います。
C:さとみさんとあやさん、どちらが大切か考える。
T:もう一人いるよ。自分も大切でしょ？
T:強い心、勇気をもつ。それから、自分のことも大切にすることだね。
T:ここで、先生が5年生を受けもった時に会った女の子の話聞いてください。
T:今日の授業の振り返りを書きましょう。

子どもの反応

【A児の振り返り】



【B児の振り返り】



ここはナイス！ 願いが明確



子どもたちの実態から、問い返すことで「勇気をもって正しいことを伝えることの大切さ」について考えを深めさせたいという教師の願いが明確です。発問を加えて、それに気付かせようとしています。さらに、終末で勇気をもって伝えることは「自分も大切にすること」だと押さえたのがナイスです。実話をもとにした説話で、和田先生の願いが伝わった授業です。いじめを生まない学級に育っていくことでしよう。

わたしならこうする！ 子どもたちの言葉を引き出す



「一人でやります。方法ではありません。」には私もどきどきしました。ただ、教師の思いが強すぎると子どもたちは「先生の求める答え」を考えようとする。そこで、「友だちとはっきり言う」の発言の後に「友だちとなら言えるんだね。一人でではできないのかな？」と問い返します。子どもたちにも少し考えさせたいですね。「説話」の子が「すっきりして元気だった」の後に「どうして元気でいられたと思う？」と訊くと「思ったことをちゃんと言えたから」が子どもたちからでてくるのではないのでしょうか。

デジタルで"道徳"

第1回
デジタルだからできること

GIGAスクール構想により、各学校でタブレットなどの端末やICT環境の整備が進んでいます。「道徳」において、デジタル教科書・教材を活用することで、どのような主体的・対話的で深い学びに向かう授業ができるのか、シリーズでお伝えしていきます。

デジタル教科書でできること、デジタル教材でできること

光文書院では、『デジタル教科書』（学習者用）、『デジタル教材 道徳（デジ徳）』（指導者用、学習者用）をご用意しています。

『デジタル教科書』は、紙の教科書をデジタル化（電子ブック化）したものです。紙面の拡大やふりがなの表示、背景色や文字色の変更など、さまざまな児童に対応した表示が可能です。デジタル上で書き込みや消去ができ、書き込んだ内容は保存することができます。

『デジタル教材 道徳（デジ徳）』は、指導や学習に役立つ多彩な機能やコンテンツを、『デジタル教科書』に付加したものです。朗読や動画などのコンテンツを活用したり、児童一人ひとりの考えを提示装置に表示してクラスで共有したりすることで、児童の豊かな学びを実現します。『デジタル教材 道徳（デジ徳）』は、すべての機能が利用できる「指導者用」と、「指導者用」から指導者のための機能を除いた「学習者用」があります。



児童一人ひとりに合わせた表示で、子どもたちの学びを保障
書体変更機能／ふりがな表示／画面拡大／白黒反転表示 など

デジタル教材で子どもたちの学びをサポート！

『デジタル教材 道徳（デジ徳）』には、児童それぞれの思いや考えをクラスで共有するために、2つのツールを用意しています。

1 こころツール

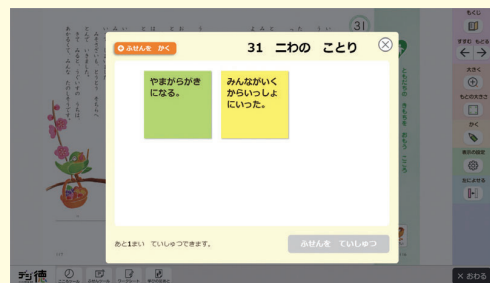
自分の思いや考えを円の割合で表示します。クラス全体を一覧化して表示することもできるので、傾向を見たり、思いや考えの違いをもとに話し合いをしたりすることができます。



▲児童が作成した心情円盤を共有できる。

2 ふせんツール

自分の意見をデジタル上の付箋に書き、クラスで共有することで、主体的対話的な学びを深めることができます。



▲付箋を使って考えを広げられる。

このほか、教科書巻末の「学びのあしあと」や各教材のワークシートはタブレット・PC上で書き込み、保存することができるため、オンラインでの学習時にも役立ちます。

※次号からは、これらのツールを活用した授業実践事例をご紹介します。

もっと知りたい場合は → <https://www.kobun.co.jp/digital/digi-toku/>

GIGAスクール
スタート特集
W座談会 ①
【体育】

体育授業におけるICT活用の可能性



静岡県静岡市立
横内小学校教諭
吉田 康祐

日本体育大学教授
白旗 和也

千葉県鎌ヶ谷市立
東部小学校教諭
佐々木 優

体育は、ICTをうまく活用するとかなり効果的だと思います。先行的にICTを活用した実践を行っている2人の先生に、成果や課題をお話いただきました。



白旗先生

令和3年1月26日、文部科学省から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」という答申が出されましたが、この中にいくつかキーワードがあります。

- ▶「これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する」
- ▶「ICTや先端技術の効果的な活用」
- ▶「ICTも活用しながら、協働的な学びを実現」

これらを個別最適な学びや支援に生かしていくために、学びについての知見の共有が必要です。

導入にあたっての工夫など～実践紹介の前に～

白旗：ICTを使うにあたり、研修なり説明会なりは絶対に必要になると思います。校内で取り組まれたことをご紹介します。

吉田：新年度2日目に、体育の研修とICTの研修を2時間やりました。得手不得手の差が出てしまうので、各学年に「情報担当」を新設し、得意な方が資料提供をして、使えるものはみんなで使おうという精神で、資料のありかを明確にして、使える仕組みやテンプレートを作りました。それから、ICT機器の活用方法を印刷室に掲示しています。使い方のイメージがもてると、やってみようという気持ちになっていただけていると思っています。



▲印刷室にICT機器の活用方法を掲示



▲学校内で、クラウド上に共有している資料

また常に、先生も子どもも得をするような使い方などを提案していくことが大事だと思っています。提案授業の際には、必ずICTを活用して、こんな使い方でもできるということを見てもらう授業にできたらと思っています。

佐々木：本校でもICT委員会を立ち上げ、各学年に一人推進メンバーを配置しました。また、先生方に必要感をもってもらうために、意図的に研修日を決めて組みました。

また、昨年度は、学校の職員会議をリモートで行いました。先生方は職員室に集まらず、あえてそれぞれの学級にリモートで参加します。先生方にはまず慣れて自信をつけていただき、授業などにもICTの活用を広げていこうというところです。

吉田：先生方が作成されるWordやスライド（PowerPoint）、Excelなどの資料の共有は学校のネットワークで、映像資料関係は閉ざされたGoogle Classroomで共有しています。使い方としては、「足掛け振り上がり」など、技によってはイメージできない先生向けに、その技ができる子どもの映像をGoogle Classroomに投稿しておくようにします。そうすると見本が手元にあるので、子どもたちも見ることができ、先生方も指導をするときに役立ちます。

ICT活用事例紹介



吉田康祐（静岡市立横内小学校の実践）

教師が児童の動きの映像を撮影し、個別配信する

これまでは、1台のタブレットに、子どもたちがギュッと集まって見ていたので、個別に見たいところを繰り返し見ることができませんでした。今回は1人1台端末なので、例えばリレーのバトンパスをしている様子を個別に撮影し、これをそれぞれの子どもたちに配信し、その動画を何回も繰り返し見ることによって、「あっ、僕のバトンパスってうまくいってるんだな」とか「ここがうまくいってないんだな」ということを子どもたちが気づくように共有するということをやってみました。



▲バトンパスを個別撮影⇒配信

白旗's
ポイント
子どもが自分の動きを確認し、気づきを得る。

子どもたちが撮影した動画を共有する

運動会の表現運動で「フラッグ運動」をやったときに、「自由にパートを作ってよい」と話をしたところ、子どもたちから、「自分たちで動画を撮って共有したい」という意見が出たので許可しました。すると、子どもたちが動画を撮りながら、「こういう動きをやってみよう」とか、撮った後にクラスで、「この動きがいいね」というように、動画を共有することで、実際にその場で演じるのではなく、何回も繰り返し見ながら、「この動画の動きがいいんじゃない？」といったことを見つけていました。



▲撮影した動画を繰り返し確認

教師が視点を決めて写真を撮影し、指導に生かす

ボール運動で、スペースをうまく使っているかどうかの視点を決めて撮影し、その写真を子どもたちに見せながら、「このスペースが空いていて、この後、自分はどのように動いた？」と確認したら、自分の動きを思い出して発言していました。「この10番がこっちに走って、こちらにパスしたら、もっと早くゴールにたどり着けたかもしれないね」というように、その子どもに合わせた助言をするなどして活用しました。



▲スペースに焦点を当てて撮影

白旗：協働的な学びとICTの活用について、お聞かせください。

吉田：体育館の入り口にテレビを持ってきて、子どもたちに気づきを持たせるための導入として使いました。前の時間でよいグループの動きを見せて、逆によくなかったグループの動きと比較させ、「どんなところがよかったのだろう」という学習課題をもたせた時間です。テレビ画面がホワイトボードになっているので書き込みながら、それぞれのグループの良い点・改善点を考えさせたことで、子どもたちが目的意識をもって取り組んでいくことができました。

佐々木：陸上運動のハードル走の例です。走るフォームをタブレットで撮影するとき、左右にブレて走っていないかを見るには正面で、跳ぶときのフォームを見るのであれば横からというように、位置や撮り方を決めて撮影していました。そのように撮影すると、試技が終わって映像を見ると、走ったり跳んだりしたフォームがはっきりと分かります。友達が分かりやすく理解することができ、苦手なところを改善していくことにつながっていくので、撮り方を子どもたち同士で工夫する様子がありました。



▲良い点と改善点を比較して確認



▲「跳ぶフォーム」の撮影は横から

白旗's
ポイント
「課題の共有」は、関わりの一歩！



佐々木優（前任校：我孫子市立根戸小学校での実践）

児童がポイントを明確にして撮影し、後で確認しやすくする

器械運動(マット運動)の授業での例です。課題解決の場面で活用しました。活用にあたっては、タブレットで何を見るのか、撮影するポイントを明確にするよう指導しました。撮影する前にポイントが書かれたカードを使用し、「こういうところを見てください」と宣言させ、そのカードも撮影しました。このようにすることで、撮影者も動画を見る人も「こういうところを見ればよい」と把握することができ、技を行った子どもたちも後で確認しやすくなったようです。また、技についての助言を友達同士で口に出して伝えやすく、その内容も明確になりました。▲技のポイントを書いたカードも撮影



白旗's
ポイント
5W1Hを明らかにして活用すること！

毎時間、「タブレットタイム」を設定する

体育の授業では、毎時間、場面を絞ってタブレットを使いました。子どもたちがお互いを撮影し、技の出来栄や完成度を確認する時間にするためです。映像で確認できるので、できるようになったことや、まだできないところが子どもたち自身で分かるようになりました。また、必要な練習や、友達と息を合わせることの重要性なども明確に分かるようになったと思います。



▲子どもたちがお互いに技の撮影をする「タブレットタイム」

大型テレビで自分の技や動きを確認する(体育館などで)

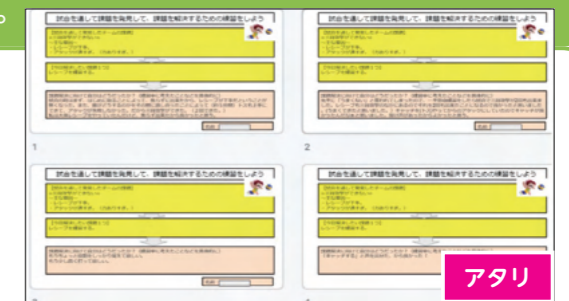
これも器械運動の例ですが、「遅延装置」という機器を活用しました。子どもの動きや技を撮影すると、その数秒後に大型テレビに再生され、演技した子ども自身が確認できるというものです。これで、自分の技がお手本に近いものなのか、直すところはどこなのかを確認できます。もし、お手本の姿と重ね合わせるという機能ができれば、より子どもたちも「もう少し腰を高く上げたほうがいいのか」とか、すぐにやってみることができると思うので、そういう機能も期待したいところです。▲演技直後に、大型テレビで確認



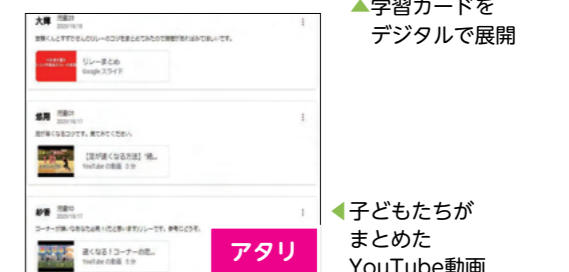
白旗：その他、効果的な実践や使い方などご紹介ください。

吉田：「学習カード」をデジタルで運用してみました。チームの課題に対して個人の振り返りを書く場面です。黄色の部分にはチームの課題に関わる部分なので、チームで振り返って書き、それをコピーペーストします。下のピンクのところは個人の振り返りを書きます。今まではチーム共通の部分も個別で書かなければいけませんでした。デジタルだと、1人の代表の子どもが書けばよくなり、それに対して個人で振り返りをするというような取り組みもしてみました。

吉田：運動会の前には、子どもたちから、「もっとリレーが速くなるコツ、こんながあるよ」と自由にYouTubeの動画を紹介し合ったり、自分たちでリレーのまとめをしたりなどといったICTを活用するような姿もありました。



▲学習カードをデジタルで展開



▲子どもたちがまとめたYouTube動画

座談会：活用の提案・まとめ

こんな活用もしてみたい！

反転学習で、授業は技能や思考を！

授業の時間で動きの解説動画をクラス全員で見て共有することも大事だと思いますが、例えばその3分を家庭に持ち帰り、家庭で事前に見た上で、知識をもって、授業の時間は45分まるまる運動の時間にします。そうすると、新たな気づきが生まれると思います。

今までは授業の導入で使っていた動画を、知識は「家庭」、技能もしくは思考は「授業」というような、『反転学習』として使うということも体育では可能になっていくのではないかと考えています。

特に、器械運動や陸上運動、水泳などが有効だと考えています。例えば、事前に平泳ぎの足の動かし方を「はりきり体育ノ介」などでイメージをした上で水泳をやると、子どもたちの泳ぎも劇的に変わると思っていますので、今年度ぜひ実践していきたいです。

* 「はりきり体育ノ介」はNHK for Schoolの番組コンテンツ。

全ての児童を見取れる可能性！

永久の課題だと思っていることが、全ての子どもたちを見取ることです。いつも、グループ活動や運動が苦手な子どもなど、見取る対象を必ず決めて見るようにしていますが、どうしても、クラス全員は見取れない部分があります。

ICT機器を使えば、子どもたちのハードル走や器械運動などの実際の映像をクラウド上にあげて、教師がそれを見て、それに対してコメントするということができます。そうすれば、より個人に合わせた指導をすることができます。ただ、働き方改革からすると逆行してしまうので、校内や学年で周りの先生方と協力し合って、実現できればと思います。それにより、子どもたちの思考も技能も、いろんな部分で深い学びに繋がっていくと考えています。

座談会まとめ

白旗先生

ICTの活用にあたっては、「発達段階」に配慮して、使い方でつまづかないようにすること、「領域」や「単元」の中でも適した活用場面を意識して、効果的なところに集中して使うことが必要です。使うことが目的になってしまえばいけないと強く思っています。



吉田先生

ICT機器を使うまでは、子どもたち同士でのアドバイスや声かけが少なかったクラスが、タブレットなどのツールがあるだけで、同じ場面（画面）を共有することができるので、話し合いや教え合いをするようになり、言語活動も活発になってきました。



佐々木先生

ICTを使うと子どもたちは明らかに変わってきました。今までよりも授業が楽しいとか、やってみたいという反応がすごく増えました。ICTは、子どもたちの主体的な学びを引き出すツールだろうということを本当に実感しています。



～ 養護教諭からのアドバイス ～



東京都国分寺市立第五小学校養護教諭 増淵優花

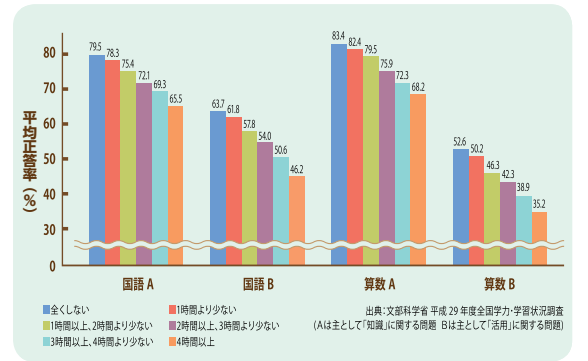
夏休みの過ごし方

新型コロナウイルス感染症による休校から1年が経ちました。新年度が始まり、もうすぐ夏休みを迎えます。夏休みは、子どもたちが長期間にわたり学校を中心とした生活から離れる期間です。開放感から生活が不規則になり、問題行動や事故の発生が心配される時期でもあります。養護教諭の立場から子どもたちが夏休みに自分事として気をつけるべきポイントを3点ご紹介します。

1 デジタル機器を使う時間の増加

小学生が一日の生活の中でデジタル機器（テレビ、スマートフォン、パソコン・タブレット等）を使う時間は、年々増加しています。夏休みになるとより自由な時間が増えるため、デジタル機器の利用時間が増えることが予想されます。デジタル機器は、とても便利で生活の中で欠かせないものになりましたが、その一方で睡眠時間や運動時間の減少、視力低下、ネット犯罪・トラブルリスクの増加なども懸念されます。

テレビゲームについていえば、小学生6年生の約30%が、平日一日2時間以上するという調査結果が出ており、テレビゲームをする時間の長さが長くなるにつれて学力テストの平均正答率が低くなる傾向があります。



（小学生のための早寝早起き朝ごはんガイド）
特に、夜遅くにデジタル機器を使うことはお勧めできません。夜に強い光を、目と近い距離で浴びることにより、入眠を促すメラトニンの分泌を妨げられてしまうからです。これにより、体内時計のリズムが後ろにずれ、寝付きにくくなるのです。睡眠は、子どもの心身の成長に欠かせないものなので、デジタル機器が夜更かしの原因にならないよう工夫する必要があります。
デジタル機器で動画やゲームを楽しむことはもちろん、GIGAスクール構想の推進によって、子どもたちに一人一

台の端末が配備され、読書や勉強もできる時代となりました。デジタル機器と上手に付き合うためのルールを家族と一緒に作るよう促せるとよいでしょう。

タブレットを使うときの5つのやくそく

- ▶ タブレットを使うときは姿勢よくしよう
- ▶ 30分に1回はタブレットから目をはなそう
- ▶ ねる前はタブレットを使わないようにしましょう
- ▶ 自分の目を大切にしよう
- ▶ ルールを守って使おう

（文部科学省 啓発リーフレット）

2 やっぱり乱れやすい生活習慣

夏休みは、つい夜更かしの日が続いてしまったり、朝ごはんを抜いてしまったり、生活習慣がとても乱れたという話を毎年保健室で耳にします。夏休み中であっても「早寝早起き朝ごはん」をキーワードに規則正しい生活を送ることが、楽しい夏休みを送ることにつながります。「運動」「食事」「睡眠」といった基本的な生活習慣は、すべて密接に結びついています。ですから、どれか一つだけ実行しようとしてもなかなかうまくいきません。「運動」「食事」「睡眠」をセットで規則正しい生活を心がけて夏休みを過ごすことが大切です。

生活習慣が崩れると、体調不良を引き起こします。子どもたちに、生活習慣の乱れから、体調を崩し、毎日布団の中で過ごす夏休みを想像させてください。楽しい夏休みを台無しにしたいくないと思う子どもたちがたくさんいるはず。起きる時刻が3時間遅い生活を2日間続けると、体内時計が約45分後ろにずれることが分かっています。体内時計が狂い始めると、昼間頭がぼーっとする、食欲が出ない、寝たい時間に眠れないなど、様々な問題を引き起こします。さらには、起床時の憂鬱、身体の不

調とも関係があることが明らかになっています。

夏休みは長いので、毎日欠かさず規則正しく過ごせれば良いのですが、なかなか大人でも難しいと感じます。ですが、生活習慣の乱れが身体の不調につながるとわかっている以上、できる限り学校生活と同じサイクルで生活する努力をすることが、夏休みを有意義に過ごすポイントとなることを子どもたちに知らせ、「せっかくの夏休みなのだから、気をつけられることはやろう!」と思わせることが行動につながると考えます。

夏休みが終わりに近づくと、学校に行きたくないと登校を渋る子どもも出てきます。生活習慣が乱れていたり、宿題が終わっていなかったりすると、さらに学校に行きたくないという気持ちが強まる子どももいるため、夏休み終盤には、生活リズムを立て直すよう子どもたち、保護者に伝えることは重要です。



(小学生のための早寝早起き朝ごはんガイド ステップ1)

3 引き続き新型コロナウイルス感染予防を!

新型コロナウイルス感染症の流行が続いています。引き続き、自分が感染しないことはもちろん、自らが感染を拡大させないことを念頭に置いて行動しなくてはなりません。新型コロナウイルス感染対策を始めてしばらく経ち、だんだんと危機感が薄れている子どももいるはずです。夏休みに入る前に、もう一度改めて感染対策の方法を確認しましょう。

これまで指導していることの繰り返しになりますが、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いの実施、換気、三密(①多数の人が一か所に集まる環境、②近距离での会話、③換気の悪い密閉空間)を避けることが推奨されています。特に、石けんと流水を用いた手洗いを継続することが有効かつ大切です。



(厚生労働省 啓発資料)

教科書に見る 夏休みの注意!

けがや事故に 気をつけよう!

多くのけがや事故は、主体要因と環境要因が関わって発生しています。子どもたちは自ら危険を予測して、回避することが重要になります。夏休み中は、いつも教員や保護者が子どもたちのそばにいて、守ってくれるわけではありません。子どもたちは、自分の身は自分で守る力を身に付けなくてはなりません。

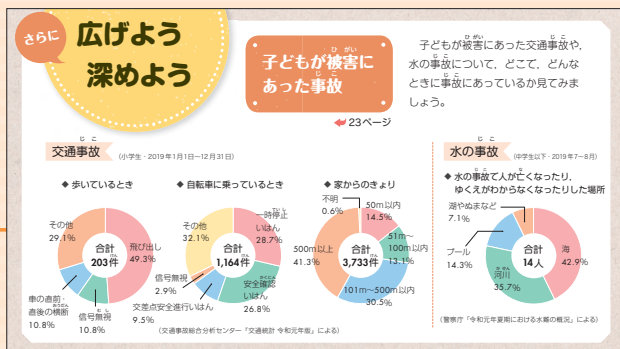
これまで夏休み中に起きたけがや事故(交通事故や水の事故)、犯罪被害などの事例を紹介し、遠い国で起きている話ではなく、身近で起こりうることでありと自覚させ、危険回避へとつなげていくことが大切です。5年生では、保健の授業でけがの防止を学習します。保健領域の内容と日常の指導を連携させることによって、学習したことをいっそう日々の生活に役立てることができます。



けがや事故は、何が原因で起こるのかを、調べるポイントがイラストで示されています。

子どもが被害にあった事故

夏休みの前に、どんなときに事故にあっていないかを調べ、被害にあわないための自覚を促します。



※左右とも 光文書院 『小学保健5・6年』

GIGAスクール スタート特集 W座談会 ②

学校現場の実態と課題

GIGAスクール構想の各学校での受け止め方や、それに伴う機器の導入状態、その機器を授業に活用するためにどのような手立てを講じているかなど、先生方にお伺いしました。



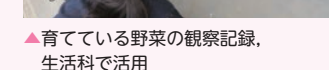
GIGAスクール構想をどのように受け止めているか

渡辺: GIGAスクール構想がスタートするにあたり、現場の様子や先生方の認識についてお話しください。

一杉: 勤務する杉並区はだいたい前から5・6年生には一人一台のタブレットがありましたので、高学年の担任経験のある教員は、授業で子どもがそれを主体的に使うイメージをもっていると思います。ただ、低学年や中学年の先生方には、まだそういう認識はなく、「休校になったら朝の会などに活用するのだから、どう活用するの?」という感じだと思います。現在、同じ端末が児童数分、学校に届いていますが「GIGAスクール」という言葉が職員室で交わされることはないですね。

根津: さいたま市の先生方は、GIGAスクール構想のことは理解していると思います。学校長が学校経営方針に載せていたり、さいたま市で毎年出されている『学校教育』という冊子の表紙にも「GIGAスクール構想」という言葉が載っていたりするので、この構想の下でやっていくという認識は教員の中にあると思います。ただ問題点としてはタブレットなのですが、前から使っているものがあり、昨年度、新しい別の端末がきたので、全て(の児童)が同じではないということです。

鹿又: 須賀川市は、今年度から3年かけて導入される計画になっています。今年度は全市の小学校4・5・6年生と全中学校、来年度には小学校3年生、2年後には小学校1・2年生という形で3年かけて一人一台配られる計画になっているようです。



▲育てている野菜の観察記録、生活科で活用 ※本座談会は、4月下旬に行われたものです。

分かっているので、徐々にというイメージです。

今年度分で配付された端末は、Google Chromeでした。アカウントやアドレスを設定する必要がありますが、まだそれさえもできていない状態です。

週に1回、パソコン支援員が企業から派遣されていますが、その支援員がどう支援するのかということはまだ決まっています。授業で積極的に使っていけるという状況ではなくてもかしいですが、パソコン室にも同じようなタブレットはあるので、私ができる範囲で、それを活用しています。

市川: 千代田区では、昨年度コロナの休校期間中に、タブレットが家庭にない児童に貸与されました。MicrosoftのSurfaceです。学校のWi-Fi環境も全部調査して(最初の頃はルーターも全部貸与していただき)、整備されて、Microsoft Teamsを入れて、朝の会や授業をオンラインで行いました。

そして、昨年度秋に、全児童に配布された新しいタブレットには、Wi-Fiにもつなげられ、LTE対応もしており、家でもタブレット学習ができるように、何種類ものアプリが入っています。ですので、すぐにも使える環境が整っています。

GIGAスクールという言葉自体を発するというよりは、実践して使いながら教員も慣れていくというように、子どもと一緒に進んでいる状況です。こうした環境なので、今年度の研究もICTで行おうとなりました。



▲付箋機能で出し合っためあてを共有

ICT活用現場報告

ICTの校内組織や校務分掌の位置づけは？

根津: 情報主任が主に推進する役割ですが、昨年度は、他に2人「エバンジェリスト (ICT関連の技術指導者)」と呼ばれる人が指名されて、GIGAスクール構想やその研修を進めていく体制でした。特に何かの資格をもっている人ではありませんでした。

鹿又: 私の学校はとても規模が小さいので、ICT教育推進組織にあたるのは自分です。隣の郡山市などは、iPadを活用しています。LTE対応もしているのでもう使っていますが、家庭に持ち帰らせるという話は聞いていません。同じ東北でも、自治体の状況で全然違います。

市川: 研究は研究推進委員が中心になります。去年、タブレット関係は、全て情報担当がやっていたのですが、かなりの仕事量になっていました。そこで今年は人員を増やし、情報担当とタブレット担当を分けています。タブレットの操作や管理のことはタブレット担当がやり、タブレットの機能や授業の中での活用などを研究推進委員で進めていく感じです。

動き出したばかりですが、2年計画で、教科では理科と算数で研究を進めることになっています。

渡辺: なるほど、役割が明確になっているんですね。また、教科も絞ってタブレットの有効活用について、学びの本質にも迫ろうとされているということですね。

タブレットを積極的に活用するには？

渡辺: 進め方として、学校にも子どもたちにもポジティブな視点では、どのようにお考えですか。

鹿又: 市の導入が3年計画なので、高学年が最初に学んで、それを下の学年に引き継ぐという形になり、プラスの面もあると思います。先生から教わるのではなく、子どもがしながら学べる環境をつくってあげれば、子どもたちが主体になっていくことができると思います。また、先生全員ができるようになるためには、できる先生がまず動かして、とにかく触りながら一緒にやることが大事だと思うので、まずは担当の私が率先してやることも大事だと感じているところです。

一杉: PCの機能やアプリの使い方などのOJTや校内研修とセットで、“それができたらどのように授業が変わるのか”が語れないと、教科(授業)の中にICTを使ってみようという気持ち起きないのではないかと考えています。僕は、タブレット機種や機能の説明を受けただけのときは、全く記憶に残りませんでした。ただ、授業で使いたくて、堪能な先生に効果的なタブレットの活用法を質問して教わったときは、納得を伴って機能などをすぐ覚えられました。ですから、機能と授業の魅力とセットにして、両方同時進行でいくとよいと思います。僕はICTは詳しくないですが研究主任なので、タブレット活用も、授業という側面から魅力をアピールできたらと思っています。

根津: 一人一台であることを考えると、しっかり授業に活用しないといけないと思っています。タブレットを使った授業がどういふものなのか、タブレットを使うと子どもたちがどのように変容していけるのかが分かると、先生たちは使っていけると思います。タブレット活用の課題とも関わりますが、子どもたちはどんどんきてても、操作が難しいと教員側が置いてかれていく部分もあると思うので、教えるというより一緒にやっていくということが大事だと思いました。

市川: 実際に使い始めるころは、紙ベースでやっていたことをタブレットに変えただけではあまり意味がないと思っていました。タブレットだからこそ良さとか、ICT機器を使うからこそできることを追究しようと、凝り固まった感じで始めていたのです。ところが、先日、研究全体会の講師に、“そんなかしこまらなくても、まずはちょっとやってみることが大事じゃないか” “子どもたちがノートに書くくらい自然に活用できるものになっていけばいいじゃないか” とお話をいただきました。それで私たちの中でも、理想を掲げるばかりでなく、まずはどんどん使ってみようという意識が変わってきました。

結局、今使ってみて感じる課題は、教員側が操作で終わってしまったり、苦手な子と関わっている間に授業時間が過ぎてしまったりして、その時間に押さえておきたかったことまでたどりつかないことがあったので、まずは教員が慣れて自然に使えるようにすることが大切だと思っています。



▲子どもに質問される先生

効果的だった活用事例をご紹介します!!

渡辺: タブレットを使った授業で、効果的だった例があれば教えてください。

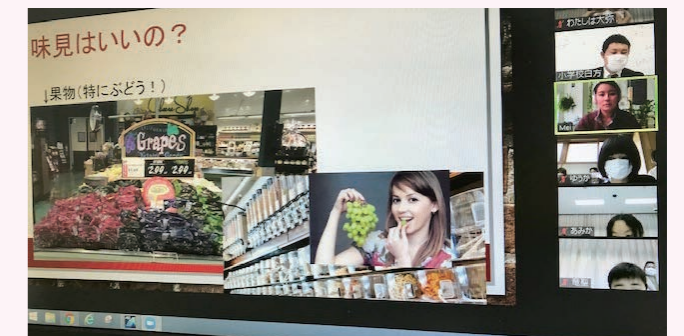
鹿又: 総合的な学習で、映像を撮って外国に送るビデオレターづくり活動をやりました。一人一台ではないのですが、協働して映像を作る中でトライ&エラーを重ねると活用がうまくできたと思っています。

また、6年生の社会科の「世界の国々とのつながり (アメリカ合衆国)」の学習で、外国の生の映像や声を届けたいと思い、アメリカに住んでいる同僚の学校とZoomをつなげて、話を聞くという学習をしました。Zoomのブレイクアウトルームの機能でグループに分かれて交流しました。コミュニケーションが活発になり、よい学びになったと感じました。

渡辺: 海外に限らず、国内でも離島と都心部など、いろいろな交流が考えられますね。相手意識をもち、同じ学年で違う学校の友達とシチュエーションが作れます。そういったツールとして意欲が高まるような例になるかもしれませんね。



▲ビデオレターを作成している様子



▲アメリカの学校と交流している様子

GIGAスクール構想の推進校の事例 (千代田区立麹町小学校)

市川: 本校の研究主題は「みんなでつくる『わくふむ』授業」です。わくわく、ふむふむできる授業という学び合いの授業です。副主題は「つながる・ひろがる・ICT」で、学び合いの場面が活発になりにくい現状があったので、ICTをうまく活用しながら、話し合いや思考の場面で、いろいろつなげて深めていきたいということで設定しました。

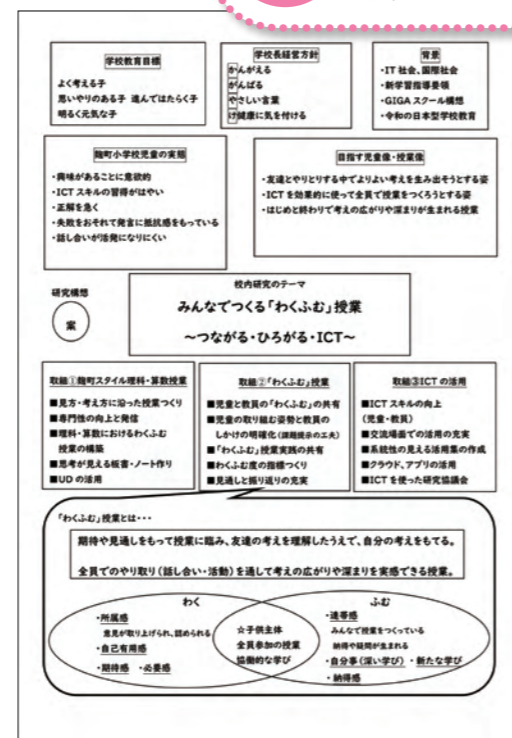
渡辺: ツールがうまく使える環境が整っているだけでなく、少し踏み込んで、それを授業ベースでどうやって使っていけばワクワクして主体的に学んでいき、また他者との対話的な活動を通して学びを深められるような授業のあり方を探っていく研究段階にあるということですね。



▲「みんなでつくる『わくふむ』授業」の研修会

進んでいる地域や学校の情報を吸収しましょう!

渡辺's ポイント



タブレット活用、教師にも必要なのは、“トライ&エラー”

渡辺: タブレットについて先進的に取り組んでいる方々が異口同音に言っているのは、

▶ 文房具が増えたというぐらいの捉え方で使っていけないと、いつのまにかやりにくくなる。

▶ その可能性は未知数なので、現場の先生方がトライ&エラーで“こんな場面でこんな使い方をしたら子どもの学びは変わった”というものをこれから見つけていく。

ICT機器の活用に関しては、子どもたちだけでなく、教師もこうした作業を積み重ねていくしかないということなのですね。

渡辺's ポイント

何はともあれやってみて、間違ったら修正しましょう。



◀ 個々に作業する内容を意思決定して取り組んでいる様子



◀ 教員が研究協議会で子どもに活用させるソフトを用いて協議している様子

ICT活用現場報告

【続】効果的だった活用事例をご紹介します！

一杉：民間企業が開催している「クエストカップ」という、自分史を語るオンライン発表会イベントがあるのですが、それを参考にして、6年生で卒業間近に、スピーチ大会のような発表会をしてみました。まずYouTubeで、自分を内省しながら語るクエストカップの映像を子どもたちに見せ、“こういう取り組みがあるんだけど、卒業前の最後の機会にみんなもやってみないか”と提案しました。

実際にやってみると、例えば、子どもたちは自分の弱点を思い出し、“これまでクラスの人々に支えてもらえました”とスライド写真を出しながら語ったり、“将来はこんな仕事をしたと思っています”と、その仕事の写真見せて語ったりして、一生懸命に伝えようという意欲も上がり、聞いている方も涙ぐむような場が生み出されました。

スピーチは画像がなくてもできますが、教師が思い出の写真を集めるフォルダーなどのツールを用意するだけで、子どもたちはそれを活用していました。こうした取り組みは、発信することのモチベーション向上や効果的なプレゼンという点でよく役に立つと感じました。

根津：体育で、タブレットで撮影すれば、子どもたちが今、“自分がどういう動きをしているかを把握し、ここをもう少しこのようにするとよい”と分かるのがよいと思います。ただ、タブレットがカメラ機能で終わらないで、さらに先にいけるとよいと思います。例えば、NHKforSchoolのような見本と重ねてみたら分かる機能があるとよいと思います。自分と本物の違

いが分かるだけでなく、どこを直したらよいかまで分かるようになればうれしいです。



▲友達の演技をタブレットで撮影する様子

▶【P.13-16参照】

渡辺：子どもたちの演技を動画で撮っておけば、跳び箱などで、最初の段階・中盤・最後の段階と、自分の努力の形が映像で確認できるので、感動の度合いが違って、意欲的になるかもしれないですね。そうしたポータル的な扱いができる可能性も広がります。

市川：子どものタブレットにはSKY menu CLASSという、動画比較ができる機能があるので、体育で走り幅跳びの1回目と最後の方で跳んだ動画を比較しているクラスもあり、その使い方はすごくよいと思いました。

また、5年生の算数で帯グラフ・円グラフを学習しますが、エクセルを使って数値を入れ、帯グラフなどを作らせていました。クラスによって差があるので、やはり習熟度別で余裕のあるクラスでそうしたことを行っています。

低学年の授業や社会の授業の中で子どもたちが発表する機会には、パワーポイントで資料を作っています。これまでは新聞にまとめていたのが、パソコンで簡単にできます。

まだあります。大規模校で、児童集会を一箇所で行うことが難しいので、集会委員がパワーポイントで作ったクイズなどを、Teamsで画面共有して流すなど、積極的に使っています。その「Teams」の機能で、一つのファイルにみん

なが同時にアクセスできるファイルの共有機能を使い、漢字の学習で“部首にさんずいがつく漢字”などを班ごとに競争させながら書き出したり、「めあて決め」のときに、自分の意見を打ち込みながらみんなで共有したりするということもやっています。



昨年から活用しておすすめなのは、「コラボノート」というアプリです。調べたことを付箋で書いたり感想を書き込んだりしてグループや全体で共有できるので、とてもよいです。

一杉：研究主任だったので、研究推進便りに、「社会が得意ではないAさんは教科書を見ながらまとめています。塾で先行学習しているBさんは、インターネットで調べています。タブレットを使うと、このように自分の興味関心やレベルに合わせて授業ができます」といった紹介をしました。また、「タブレットを使った調べ学習の授業をするときのコツは、参考となるホームページのリストをあらかじめ作っておくこと」とい

ったことも発信しました。こうしたことを他の教科でも自主的に発信していけるような文化を作っていくと、可能性が広がっていくのではないかと感じています。

やはり子どもの学びの変容やその場面を捉えて、校内で広めていくのがよいと思います。



▲研究推進便り

これからのGIGAスクール・ICT活用に向けて

一杉：ICT化が進むと、逆に若い先生の活躍の場が増えていくのだと思います。私も実際、3年目の若い先生に聞くことも多いです。そうやって、主任の立場の人が、若者に活躍の場を増やしていくチャンスでもあると考えています。

市川：ICTを活用することが必要不可欠な状況なので、慣れるために教員間で一緒にやったり、子どもが慣れれば子ども自身でできることが増えるので、単元によっては交換授業をして、できる人がそのクラスに入ったりしています。そういう試みをした学年はありました。

鹿又：主任の立場からすると、最低限教師全員に身につけてもらいたい知識があります。例えば、簡単な立ち上げとか、パワーポイントなどのソフトは通常に使えるようになってもらうということです。プラスアルファのものは、できる人がその学年で使って、そして子どもが使えるようになり、先生と子どもが並行して進めていくような関係づくりが大事だと思います。

渡辺：これからの教育の在り方や教材は、“どんな力をこれからの子どもたちに身につけさせるべきなのか”を検討していく過渡期にあります。特に、これからの教育界を背負って立つ若い人たちは、研ぎ澄まされた感性を常に磨いて、いろんな方とディスカッションして、本当に最先端の思考が働くように、ぜひ頑張ってくださいと思います。

一人一台のタブレットという新しい環境を、教師が気張ることなく、子どもたちと一緒に使いながら、子どもたちの学びや成長に生かしていくことが大切です。



クロスカリキュラムの考え方で、こんな活用ができるのでは？！

渡辺：小学校4年生で、体育の幅跳びと算数の折れ線グラフの学習をコラボさせ、幅跳びで跳んだ距離を、次の算数の時間には折れ線グラフで表していく。その折れ線グラフを見て次の目標を立てる。その目標を立てるときは、体育の時間に改善すべきポイントをグループで話し合う、そんな活動をしていた事例がありました。

算数の時間に、子どもたちが“踏み切りは、もっと足を強く蹴った方がいいよ”とか“助走を少し長くした方がいいよ”といった助言をグラフの周りに書き込むのです。次の体育の時間で、その助言を受けてやってみて、結果をまたグラフに描くと、前は一回一回凹凸が激しかったのに、だんだん安定して右肩上がりになってく傾向が顕著に現れてきました。

そういう学びにICT活用はよいですね。数字を打ち込んだら自分が跳んだ今日の記録がグラフに表されていくというのは活用できる機能ですね。



こんなコンテンツやアプリが、あったらいいな！

鹿又：体育や音楽、図工などの技能教科には、指導に使える動画がほしいです。福島県は図工も担任が指導しなければならないので、そこでのプロの指導方法が知りたいし、それだけでなく、子どもが直接見て具体的に分かるとういと思います。個人差ができる教科に関しては、より一層ICTは必要になると感じています。

一杉：「子どものトラブルあるある解決集」があるといいです。教師は学びの質的なサポートをしたいのに、現状ではスキル部分のサポートに追われています。そんなとき、教師を頼らなくても、子どもたちが疑問を検索したら動画で解説してくれるアプリがあると、教師は本質的な方のサポートにあたれると思います。

根津：理科などの授業の単元ごとのリンク集のような

楽をするためだけでなく、力をつけさせるために！

ものがほしいと先生方から聞いています。やはり、使えるもののポイントは、操作が簡単にできるということだと思います。いちばんあったら嬉しいのは、タブレットを使うことにより、そのまま成績処理につながるものです。

市川：やはり操作に気を取られてしまうと、メインの活動の時間が短くなってしまいますので、教師が簡単に操作でき、低学年の児童でも使えるアプリやコンテンツが嬉しいですね。それから、図書の貸し出しなどバーコードで“ピッ”と処理できるような仕組みは子どもも喜ぶので、提出物などをQRコードで読み取ると、その子どもが提出したことが記録されるようなシステムなどがあれば嬉しいと思います。

デジタルで 学びを深める 夏休み



夏休みの
2大宿題といえば……



自由研究

読書
感想文

自由研究・読書感想文で困るのは……

方法

テーマ

どんなふうに
進めたら
いいの？



どんなことを
テーマにしたら
いいの？

今こそ
出番！

一人一台の
タブレット



自由研究わくわく動画



自由研究の進め方を解説する動画をご用意しています。具体的には、「①テーマを決める」「②準備をする」「③やってみる」「④まとめる」のステップごとに、どんなことをやればよいか、アドバイスしています。

テーマ決めからまとめ方まで、全体の流れをイメージしてから取りかかることができるので、自由研究が初めての児童にもぴったりです。二次元コードから手軽にアクセスできるので、お家の人と一緒に確認してから取り組むこともできます。



自由研究の進め方がわかったら、次にやるのは「テーマ決め」。「どんなふうにテーマを見つけたらいいかわからない」と悩んでしまう児童向けに、参考となるアイデア動画を低・中・高学年で各10本ずつ（30本）をご用意しました。

自由研究は、児童の身近な疑問・不思議がテーマになります。動画には、児童がやってみたくなるテーマがいっぱい！動画を参考に、自分でアレンジして取り組むことも可能です。



二次元コードを
読み取るだけ。
簡単だね。

右記の二次元コードから
「自由研究わくわく動画」の
サンプル動画を
見ることができます。



ネタ・アイデア動画の例

低学年

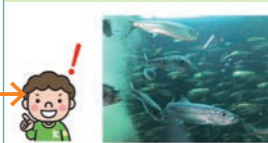
- ▶これはやさい？これはくだもの？
- ▶こん虫の耳はどこにある？
- ▶ギターを作ろう
- ▶しょくぶつをさがそう
- ▶やさしいも花がある？
- ▶よくとぶ紙ひこうきを作ろう など



バッタの耳は、
こんなところにあるよ！

中学年

- ▶いろいろな種を調べよう
- ▶魚がつく漢字はいっぱい！
- ▶これって英語じゃないの！？
- ▶中身の量はどれくらい？
- ▶学校の校歌をいろいろな見方で調べよう
- ▶かい中電灯をランタンにしよう など



「弱い魚」といえば…？

高学年

- ▶そのコトバ、どこから来たの？
- ▶10円玉を動かすマジック
- ▶究極のゆで卵を作ろう！
- ▶今日のごはん、材料はどこから？
- ▶その遊び英語でどう言うの？
- ▶漢字を発明しよう など



お気に入りの
何分間ゆでた卵かな？

※動画タイトルや画像は、実際とは変わる場合があります。

読書感想文徹底サポート



読書感想文の
悩みを
スッキリ解決！

※PC端末にインストールして使用できます。(対応OS: Windows 8.1 / 10)

STEP 1

本を探そう



質問に「はい」「いいえ」と回答すると、一人ひとりにあったおすすめの本が紹介されます。

STEP 2

本を買おう・借ろう



書店や図書館での本の入手のしかたを、キャラクターが紹介します。

STEP 3

読書感想文を書こう



質問に答えていき、書く内容を順番にまとめていくことができます。

デジタルで 苦手克服の 夏休み

「基礎・基本」のふり返り

漢字の
学習に!



計算の
学習に!



デジタル教材の 活用方法

タブレット端末にインストールして使用できます。
個別学習対応なので、児童のつまづき解消に役立ちます。
※Windows版/iOS版に対応



デジ漢コンテンツ 漢字書きマスター



自動判定で字形までばっちり!

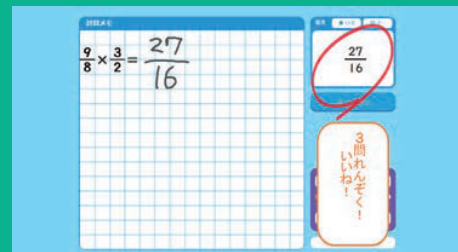


漢字の読み・書きをタブレットで練習することができます。書き順と字形(とめ・はね・はらいなど)を自動で判定するので、間違えたまま覚えてしまうことがありません。

漢字をノートに書いて練習するのが苦手な児童でも、タブレットの活用で、漢字学習への抵抗感を減らすことが可能です。

自分で学習したい漢字を選択して繰り返し練習できるので、夏休み期間を活用した苦手克服におすすめです!

デジ計コンテンツ れんしゅう/テスト



誤答に応じた個別サポート!



自動採点機能つきで、1~6年のすべての計算単元、1~3年の「時計」、4~6年の「面積・体積」の単元の問題をタブレットで取り組むことができます。間違えた場合は、誤答に応じて既習の学習に自動で戻り、前の学習を復習することができるので、一人ひとりの習熟度に合った学習が可能です。

部分積や途中式を採点してくれる「にゅうもん」機能は、計算の途中で間違いに気づくことができるので、低位の児童が取り組むのにぴったりです。

夏休み中の
学びを
サポート!



左記の商品の無料付録として、P24~26で紹介した自由研究わくわく動画、デジ漢、デジ計などのデジタル教材を無料でご利用いただけます。

詳細は、光文書院のWebサイトをご覧ください。▶▶▶
▶ <https://www.kobun.co.jp/products/summer/>



算数授業のスペシャリストたちが学級経営のヒケツを大公開!



私が、「魔法の言葉」をまとめた代表です。算数 × 魔法の言葉 すごいですよ!

魔法の言葉を操る
算数のスペシャリストたち

次のページから、
ぼくの「魔法の言葉」が
紹介されています。
ぜひ、参考にしてく
ださい!



高橋 丈夫



小宮山 洋



榎原 裕仁



工藤 尋大



青山 尚司

日々の声掛けに、
魔法の言葉をプラス

学級経営で、お悩みの先生!!



荒れているわけではないけれど、何だか物足りない!



クラスに自分の居場所があると思ってほしい!



オンラインでも、児童が主体になる授業にしたい!

こんなクラスに

- あったかい
- 人の意見を聞ける
- 自分の意見を話せる
- 認め合える

この扉を開けて
算数のスペシャリストの
魔法の言葉をゲット!



【魔法の言葉 その1】

エムバイビー
今日のMVPは?



青山 尚司
筑波大学附属小学校 教諭

授業の最後にまとめの言葉を引き出す「魔法の言葉」

エムバイピー
今日のMVPは？

授業の最後に、「わかったことは何？」「大切なことは何？」と聞いてしまうのは、子どもたちからまとめの言葉が自然な形で出てこないからです。素直な子どもたちはきっとそれらの問いにも答えてくれます。でもそれは、子どもたちが本当に大切にであると実感したことでなく、教師が何を求めているのかを一生懸命考えた答えではないでしょうか。

授業の終末の場面で、まとめの言葉がうまく出てこないと感じたら、「今日の授業のMVPは誰だと思う？」と問いかけてみましょう。すると子どもたちは、真剣に黒板やノートを見て授業全体を振り返り、重要な場面とそこで活躍した友だちを見つけて教えてくれます。そしてその子を選んだ理由を問うと、子どもたち自身が大切に感じた、まとめにつながるキーワードが自然と引き出されます。

MVPとは、「Most Valuable Player」の略で、日本語では「最優秀選手」という言い方になります。野球やサッカーなどのスポーツで、ある試合で最も活躍した選手を指す

場合もあれば、シーズンや年間を通して著しい活躍をした選手に与えられる賞を指す場合もあります。まずはこのような意味や使われ方を子どもたちにも伝え、「みんなのために大切な活躍をした人」を選ぶ意識を高めましょう。

この言葉を使い始めた段階では、発言内容ではなく仲のよい友だちの名前を挙げる姿が目立つかもしれません。でも、普段あまり関わっていない友だちをMVPに選ぶ子が必ず現れます。そして、選んだ理由を語り合う活動を継続することで、授業における活躍とはどのようなものが学級の文化として共有されていきます。子どもたちの選ぶ目が育っていくと、みんなが知らない難しい知識を披露する子よりも、図や言葉、式を効果的に使ってみんなが納得できるわかりやすい説明をした子が選ばれるようになっていきます。MVPを選ぶ活動の中にも数学的な見方や考え方が働くようになると、授業の最後まで生き生きとした交流が続きます。

4コマ漫画でイメージチェック!



いつでも・どこでも・だれでも使える!

「今日のMVPは？」は、便利で簡単な魔法の言葉です。算数の授業だけでなく、学校生活のあらゆる場面で使うことができます。例えば、運動会や遠足などの行事や、お楽しみ会などの学級活動の振り返りをする場面で使うと、次の活動への意欲を効果的に高めることができます。また、帰りの会で日直が1日を通したMVPを発表することを継続的に行くと、友だちのよさを見つける文化が根付いていきます。低学年で「MVP」という言葉が難しい場合は、「今日のキラキラさん」など、親しみやすくわかりやすい言葉にしてあげてもよいでしょう。

友だちに「最優秀」という価値を与えてもらうことがうれしくないわけではありません。MVPを積極的に見つけて伝える活動は、みんなの笑顔を確実に増やしていきます。いくらやってもやりすぎることはないのです。むしろ、やればやるほどクラスの雰囲気はよくなっていきますし、いろいろな子が選ばれるようになっていきます。あらゆる場面でMVPを問い、仲間のよさをみんなで認め、励ます時間をつくっていきましょう。

いずれ、教師が問わなくても、授業中のよい発言や生活場面のよい行動を、「MVP級」と評価する子も現れるようになります。時には、教師が見逃してしまっている子どもたちのよさを子どもたちが教えてくれることもあります。目立たないところでクラスのために頑張っている友だちをMVPに選んだ子がいたら、「いい目をしているね!」と褒めて、認める人を認める連鎖をつくっていきましょう。

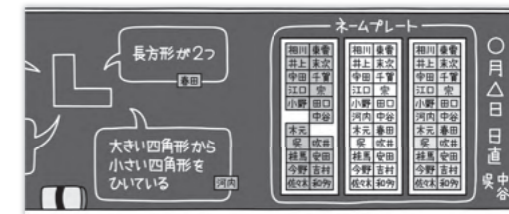
魔法の言葉の効果を高める道具!

授業で活躍した子の名前を黒板に残すための小道具として、マグネット付きのネームプレート複数枚作っておくことをおすすめします。

作り方は、まずパソコンでクラスの児童全員の名前が1枚に収まるように表を作ってプリントアウトします。それをラミネートしてはさみで切り、裏にマグネットを貼り付けたら完成です。色違いを何種類か作っておき、最初の発言は白、2度目の発言は水色、3度目は青……のように使い分けます。授業中に黒板を見ると、そこまで誰が発言してきたのかがはっきりわかります。また、残っているネームプレートの方に目を向けると、まだ発言していない子が誰なのかもすぐにわかるので、全員が活躍するよう意図的に指名してあげることができます。授業の終わりに魔法の言葉その1を使ってその授業のMVPを選んでもらったら、黒板に貼られたネームプレートのそばに、赤のチョークで二重丸や花丸をつけてあげます。そのまま黒板の写真を撮っておくと、よい活躍をした子が誰だったのかを後で振り返ることができます。また、それらがその授業で引き出すべき発言であったかという観点で自身の授業を評価し、その後の教材研究として役立つことにもつながります。

いろいろな子がMVPに選ばれるようになってきたら、選ばれた子のネームプレートに、小さな金のシールを貼っていくという方法もあります。積み重ねが目に見えるので励みになりますし、そのネームプレートを学年末にプレゼントしてあげると、とても喜ばます。

授業以外にも、グループ分けや役割分担など便利な活用方法がたくさんあるネームプレート、ぜひ作ってみてはいかがでしょうか。



算数スペシャリストの「魔法の言葉」が待望の書籍化!



算数×学級経営

魔法の言葉で
もう一歩先の授業・クラスを!

使える言葉を20本収録!
ハッシュタグでお悩みに対応!
6月15日発売!

B5判/112ページ
定価: 1,650円 (本体1,500+税10%)

著者・高橋 丈夫 (成城学園初等学校副校長) ・工藤 尋大 (成城学園初等学校教諭)
・青山 尚司 (筑波大学附属小学校教諭) ・小宮山 洋 (成城学園初等学校教諭)
・榎原 裕仁 (武蔵野市立第五小学校教諭)



読み書きが苦手な子どもに 漢字を楽しむ1冊を!

読み書きの苦手×繰り返し学習

漢字の書き取りは、子どもにとって大切な学習課題です。抽象的なことがらでも、漢字単語を読むだけで、何について書いているのか、すぐに知ることができます。それだけ大切な学習なので、努力して繰り返し練習することを、子どもに求めてきました。

しかし、繰り返し練習だけでは、うまく習得できない場合があります。うまく習得できない場合には、はじめは積極的に練習しても、すぐにドリルを放り出してしまいます。

そのような子どもの中には、「読み間違いが多く、教科書の音読が苦手」という子どもがいます。また、「読むことは苦手でないが、書くことが苦手」という子ども

や「漢字の小テストが半分もできない」という子どもがいます。「ノートの文字がぐちゃぐちゃで、後で読むことができない」という子どももいます。

苦手の原因や背景には、「学習障害 (LD)」だけではなく、読み書きの発達の違いがあります。また、注意の困難、社会性の困難も関係します。背景はさまざまですが、支援する上で共通して大切なことは、子どもが取り組みやすい教材を通して、読み書きに対する苦手意識の軽減を図ることです。

ここで紹介するワークブックは、子どもの得意な力を生かして学習に取り組むことができる教材です。

読み書きの基礎スキルを促す手立て

例えば、「見たことがない魚をあらわす漢字」の読み書きを学習する場面について、考えてみましょう。鱒(さわら)は、ポピュラーですが、「鱒(たかべ)はどうでしょう? 「たかべ」「たかべ」……と繰り返し読むことで覚えようとするか、漢字を部品に分けて構成を把握してから覚えようとするか。

子どもたちには、漢字を何度も反復練習する課題や宿題が出されますが、健常な子どもたちは、自分なりの効果的な習得の仕方を繰り返しの中で身につけます。いっぽう、読み書きが苦手な子どもは、漢字を書くことを繰り返す練習が難しいので、「自分なりの工夫が効果的なこと」を経験する機会が乏しくなります。

本ワークブックは、各種の背景に応じた豊富な支援の手立てを用意しました。

- ▶読み間違いが多く、教科書の音読が苦手、漢字の書字ができない。
 - ▶漢字の読みの定着を進める (図1)
- ▶読むことが苦手でないが、書くことが苦手。
 - ▶部品の言語的手がかりを用いる (図2)
- ▶字の形が整わない。
 - ▶字の形に注意を促す (図3)

その子どもが無理なく行える課題によって練習効果を経験させることで、学習に対する意欲を育てていきます。

漢字の定着にリマインドの習慣を!

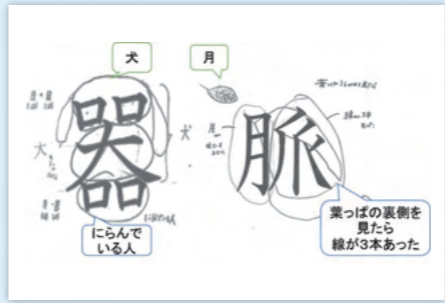
漢字の繰り返し学習は復習によく利用され、忘れていたら、さらに何度も繰り返させます。この方法は、読み書きが苦手な子どもに、多くの苦痛をもたらします。そのため「反復書字による復習」とは違う手立てを用意する必要があります。

私たちは、書字の学習後に、部品の言語的手がかりを思い出す手立て(リマインド)の効果について調べました。対象は、書字困難を示すLD児18名としました。比較する条件は、反復書字条件(条件①)、言語的手がかりを用いて学習し、リマインドしない条件(条件②)、言語的手がかりを用いて学習し、リマインドする条件(条件③)の3種です。条件①と②では、書字の学習後、1週後、2週後、4週後に保持テ

ストをしました。条件③では、書字の学習後、2週間に数回、電話で言語的手がかりを尋ね、忘れていたら正答を教えました。リマインド終了後、4週にわたって保持テストをしました。

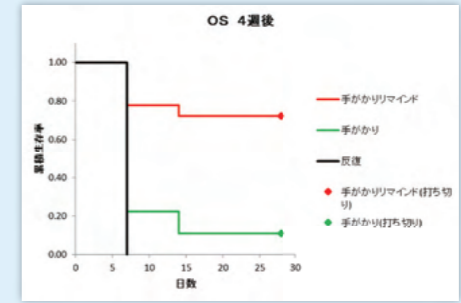
子どもたちが利用した言語的手がかりはとてもユニークでした。漢字の形を、視覚的イメージとして表現した手がかりもありました(図4)。(図5)は、書字学習の保持の様子を代表的な事例をもとに示したものです。リマインドする条件③では、1か月後でも約70%の保持を確認できました。このことからLD児では、リマインドがとても効果的なことがわかりました。本ワークブックでは、リマインドが無理なく行えるように工夫しました(図6)。

図4 言葉の手がかりの例



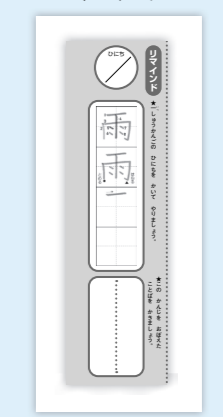
「器」について、「上部は大きな犬、下部はにらんでいる人」と見立てて答えてくれました。また、「脈」は、「月が出ているときに葉っぱのうらがわを見たら、線が3本あった」と答えてくれました。

図5 4週にわたる漢字書字の保持の様子



反復書字で練習する条件①では、学習後7日で、忘却が生じました。一方、言語的手がかりを用いて学習し、リマインドする条件③では、1か月後約70%の保持を確認できました。

図6 ワークブックのリマインド



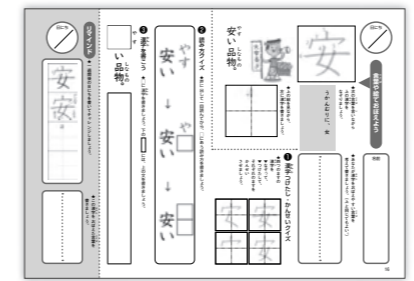
1漢字を1枚から。ていねいに学んでいくことが大切です!

プレ漢字ワーク 1年~4年

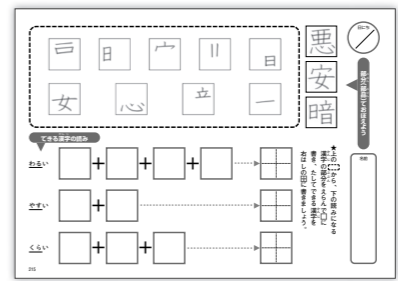
B5判
1年: 216P, 2年: 256P
▶定価: 1,760円 (本体1,600円+税10%)
3年: 320P, 4年: 320P
▶定価: 1,980円 (本体1,800円+税10%)
監修: 小池敏英

絶賛!!
発売中!
6月1日~

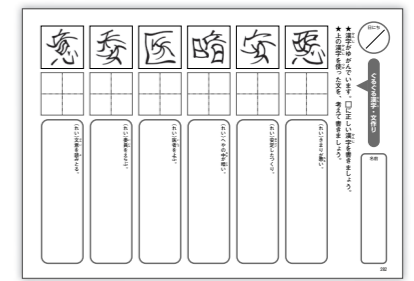
【1漢字1枚】



【3漢字1枚】



【6漢字1枚】



▲1冊で、1漢字1枚~同じ漢字を3回学びます。

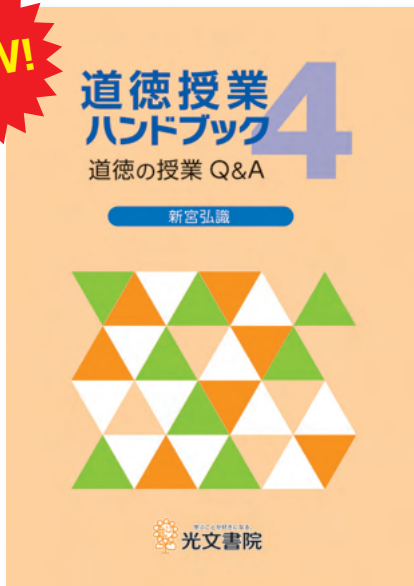
*1年のみ、1漢字2枚のよりていねいな構成になっています。

道徳の授業で
お悩みの先生 **必携!**

光文書院の道徳書籍

大好評 道徳授業ハンドブックシリーズ 最新刊!

NEW!



ISBN : 978-4-7706-1123-9

道徳授業ハンドブック4 道徳の授業 Q&A

A5判/64P
定価：500円+税
著者：新宮弘識



- ねらいの立て方から導入、展開、終末、評価まで、先生方の疑問に答える1冊!
- 道徳の授業力向上に!

**「道徳授業ハンドブック2・3」
大好評発売中!**

※ハンドブック2・3は書店・Amazon Webサイトでの販売をしておりませんので、光文書院販売店にてお求めください。



ISBN : 978-4-7706-1065-2



実践から学ぶ 深く考える 道徳授業

B5判/160P
定価：2,300円+税
編著：加藤宣行・竹井秀文



ISBN : 978-4-7706-1072-0



子どもに寄り添う 道徳の評価

B5判/160P
定価：2,300円+税
編著：加藤宣行

ご注文は、光文書院販売店、または書店、Amazon Webサイトにて >>>

先生方へ
光文書院より
目より情報!

光文Webサイト 新コラム記事掲載のお知らせ

Webサイトにて、コラム形式で教育情報をお届けしてまいります!!

『デジタル教材の活用』(6月9日公開予定)

デジタル教材っていろいろあるけど、具体的な活用イメージが浮かばない…。そんな先生方に向け、授業準備や授業中などでの活用例をご紹介します!

光文書院 コラム

